



## 医療従事者を椿油で応援



6月4日、田布施地区元気づくり委員会高齢者部会は、同部会製造の1瓶40㏄入りの椿油180本を、南薩医師会に寄贈しました。新型コロナウイルス感染症対策で手洗いの回数が増えたため肌荒れに悩む看護師等のスキンケアに役立ててほしいと提供するもので、部会長の堂蘭三弘さんは「医療現場は大変だと思うが、役に立ててほしい」と話しました。椿油は、南さつま市と南九州市の約60カ所の医療機関に配布されます。

## 医療従事者を動画で応援



鳳凰高校生徒会は、新型コロナウイルス感染症治療の最前線に立つ医療従事者を激励する動画を作成しました。同校の休業期間中、在校生や卒業生がSNSなどでの呼びかけに応じたもので、動画は6月1日から動画投稿サイト「YouTube」で公開されています。生徒会副会長の藤崎千尋さんは「本校の卒業生も多くが国内の医療機関で活躍している。私たちのメッセージが少しでも力になれば」と話しました。

## 災害時の連絡体制を強固に



5月21日、梅雨による大雨や、夏から秋にかけて発生する台風など、これからの時期に発生する特有の自然災害に備えて、市と県南薩地域振興局、南さつま警察署、市消防本部、市消防団が参加し、防災点検が行われました。昨年7月3日の大雨で被害を受けた、唐仁塚川(加世田高橋)や大王川(大浦町)などの復旧の進行状況やその他危険箇所を点検し、災害時の連絡調整や対応を速やかに行うことを再確認しました。

## 旬のキビナゴを販売



5月30日、坊泊漁協は坊漁港の水揚げ荷捌き施設(坊津町坊)でキビナゴ販売会を開催しました。新型コロナウイルス感染症対策のため完全予約制でしたが、坊津沖で産卵期を迎えてたっぷり脂が乗った旬のキビナゴを求めて110人が合計310キㇿを購入しました。昨年の南さつま市のキビナゴの年間漁獲量は約200トㇿ、野間池漁港や坊泊漁港で多く水揚げされています。